

「警戒レベル5」で命を守るための 最善の行動を！～自ら情報収集する習慣をつけましょう～

近年は台風、線状降水帯による集中豪雨など全国各地で風水害・土砂災害による被害が起こっています。湖
避難情報と気象庁が発表する防災気象情報などが、5段階の警戒レベルに整理されました。今一度「自分の命

南市でもこのような災害がいつ起こってもおかしくありません。昨年の7月豪雨を教訓に、自治体の発令する
は自分で守る」という強い意識を持ち、次の表を参考にしながら、適切な避難行動をとるよう心がけましょう。



■ 防災情報、防災気象情報などの入手方法を確認

○ 彦根地方気象台

(<https://www.jma-net.go.jp/hikone/>)
警報・注意報・危険度分布(土砂災害、浸水害、洪水)などの気象情報全般

○ 土砂災害メッシュ情報

(<https://www.jma.go.jp/jp/doshamesh/>)
近辺の2時間先までの土砂災害発生の危険度

○ 滋賀県土木防災情報システム

(<http://shiga-bousai.jp/>)
県内の河川の水位や土砂災害警戒情報など

○ 滋賀県防災ポータル

(<https://dis-shiga.jp/>)
滋賀県内の気象情報、緊急情報、避難情報などの総合的な防災情報

○ 湖南市の防災情報

市ホームページ
防災行政無線
湖南タウンメール
市公式アプリ「こなんいろ」

※ 防災行政無線は、雨や風の影響を受けやすい、機密性の高い住宅内では聞こえにくいという弱点があります。

湖南タウンメールやこなんいろでは、気象情報のほか避難所開設情報などの緊急情報も受け取ることができます。

タウンメール



こなんいろ



登録はこちらから



提供:国土交通省近畿地方整備局

10月9日は 湖南省防災の日 ～防災は日頃の備えから～

被害を最小限に食い止めるためには、事前の備えが重要です。

ハザードマップなどで地域の危険を確認

『湖南省防災マップ』などで河川が氾濫した場合の想定浸水深や、自宅・学校・職場付近にどのような危険があるのかを確認しておく。

避難(場)所・避難経路の確認

災害ごとに指定されている避難(場)所の位置と、そこまでの経路や移動手段を確認しておく。

自宅周辺の点検・清掃

側溝・排水溝・雨水ますなどにゴミが詰まらないよう掃除し、水はけをよくしておく。また、飛来物に備えて、窓ガラスに飛散防止フィルムを貼っておく。

非常持出品の準備

避難時にすぐに持ち出せるよう非常持出品をリュックサックなどにまとめ、玄関付近に置いておく。持病の薬などの必需品も忘れないように準備しておく。

避難時の注意点

- ・2人以上で避難し、流されないようロープで互いを結ぶ。特に子どもからは目を離さない。
- ・河川、水路、ため池などに近づかない。
- ・側溝、水路、マンホールなど、水中の障害物に注意する。
- ・歩行可能な水深の目安は約50センチ。水の流れが速い場合は、20センチでも危険。洪水の中では、裸足、長靴は禁物。運動靴で避難する。

※避難場所への移動がかえって危険な場合は、自宅やそのときにいる建物内のより安全な上層階、部屋などへ移動する。土砂災害の危険もあるため、山側の部屋は避ける。

想定浸水深「見える化」事業

想定最大規模降雨による洪水発生(外水・内水氾濫を含む。)を想定した『想定浸水深標識』を洪水浸水想定区域内の電柱に設置します。

今秋以降、複数年にわたって設置していきますので、ご理解ご協力をお願いします。



▲標識の例

10月のJアラート訓練は

23日(水)午後2時頃です

防災行政無線による訓練放送を行います

危機管理・防災課(東庁舎)

☎ 71・2311 FAX 72・2000

